

OB 会設立 50 周年記念イベント南アルプスリレー縦走
三伏峠～荒川（前岳・中岳）～赤石岳～樺島 単独縦走報告
「南アルプスの緑の美しさはやはりいいものでした」

S50 年卒 鈴木康和

日時：2010 年 7 月 29 日（木）～8 月 2 日（月）

コース：伊那大島駅＝鳥倉登山口——三伏峠——小河内岳避難小屋（C1・沈殿 C2）
C2——高山裏避難小屋——前岳——中岳——荒川小屋（C3）
C3——大聖寺平——小赤石岳——赤石岳——富士見平——赤石小屋（C4）
C4——樺島ロッジ＝畑薙第一ダム＝静岡駅

7 月 29 日（木）：雨のち雨風強し

前日に駒ヶ根駅前のビジネスホテルに泊り、駒ヶ根駅を 5:13 始発で伊那大島駅 5:54 着。生憎の雨の中、6:45 発鳥倉登山口行きバス（25 人乗り・荷物代込み¥2,430）は 20 代半ば位の男女パーティと小生の 3 名を乗せて鳥倉へ向かい、途中 1 時間程先の大河原より 6 名の中年男性パーティが雨具姿で乗り込んで来る。

バスは登山口に 8:30 過ぎに到着、登山届けを即提出して 8:35 出発する。

40 分・50 分・50 分のペースで三伏峠に 11:15 到着。

三伏峠小屋の入口横に張られたブルーシートの下、10 数名程に混じって立ったまま食事休憩を取る。

11:40 三伏峠小屋を出発、烏帽子岳へ向かう登山者は小生のみで残りは多分塩見岳方面。烏帽子岳手前より雨風が強くなり、場所によりまともに雨風を受けて目を開けていられない程である。ザックカバーとザック底部の間に水が溜まるし、雨具下もびしょり状態。烏帽子岳を 12:35 通過した先で 10 分休憩。上手く行けば高山裏への野望は既に無くなり、今や小河内岳避難小屋を目指すのみ。14 時に避難小屋に到着。

行動時間は 5 時間半弱となる。

11 年前に建て替えられて 20 名収容とあるが、床面積はちょうどしじま小屋位である。鉄骨柱作りで冬季開放している割にはきれいでしっかりとした小屋で、太陽光発電で照明等の電気は蓄電されて不自由は差ほど無いとのこと。トイレは別建物で大キジは¥100 / 日（赤石避難小屋、中岳避難小屋、赤石小屋も可搬式カートリッジ方式）。

小屋の管理人ご夫婦のご主人は、塩見小屋前小屋主の河村氏で「岳人」「山溪」などの記事にも度々登場する名物小屋主だったおやじさんで、93 年鳥倉林道開通による三伏峠からの登山者激増による小屋運営管理の大変さから小屋権利を手放して、のんびりと出来るこの避難小屋管理を 6 年程前から引き受けたとのこと。話好きで、本当に山が好きな

方であるとを感じる。夫人の方は無口タイプだが何かと気使いしてくれるやさしい方である。

素泊まり ¥4,500、寝具（毛布 2 枚・シュラフ・枕） ¥500 である。

水場なく自炊がベースとあったが、水（天水） 1ℓをサービス提供してくれたので、4ℓ担いで来たが自分の水はほとんど使用しないで済む。

食事も夕食（レトルトもの） ¥1,000、朝食（即席麺等） ¥500 が可能で、ビール ¥600・酒等の飲み物もある。

水場は教えてくれなかったが、天水より美味しいので上岳沢等まで往復 2 時間で時々水を取りに行っているとのこと。

朝夕の定時の無線交信が良く聞こえ、周辺の小屋状況が分かる。

昨日夕方に塩見小屋より病人のへり出動要請が出たが本日は動けない模様。

さて先客は介護士の柴田夫婦で、塩見小屋から 12:30 頃着いたとのこと。柴田旦那は 40 代後半のがっちりした体格で写真が目的の夫婦山行、今回は北岳から茶臼までの縦走を計画していて南アルプスのオタク。柴田夫人は如何にも看護婦と言う感じの 40 才前後の大人しい女性。小河内岳避難小屋は富士山が頭から裾までの全体の姿が見える数少ないポイントで、写真好きが泊る理由はこれとのこと。

このご夫婦の食料計画がすばらしい。料理はもっぱらご主人主導で（下界生活も同じとのこと）、生野菜・缶詰類・調味料がきちんとタッパウェアにパックされ、フライパンまで持ち込んでいる。夕食はコンビーフ&タマネギ炒めスパゲッティ・洋風スープ・きゅうりもみサラダ、フライパンで炒めるコンビーフとタマネギの匂いが刺激的だった。

一方小生の夕食はサタケマジックライスのドライカレー・インスタントポタージュスープと小屋からのサービスのポテトサラダである。

柴田旦那曰く「サタケマジックライスのドライカレーよりえびピラフがまずまずで、これを炒めて食べると更に美味しいです」でした。次はえびピラフをトライしよう！

消灯前の天気予報を TV で見ると、「明日は曇りのち所により晴れ間あり」ではあるが小屋の外は暴風雨もどき。明日はどうしよう！？

19 時消灯後も雨風は相変わらず強く、時々小屋の壁を吹き飛ばす様な風が吹く。

7 月 30 日（金）：雨のち午前中晴午後曇り

19 時消灯就寝なので 2 時頃に目を覚ますが、外の雨・風がすごい。

濡れた物が乾いていないから沈殿しよう！！決断して再度安らかに眠りに入る。

ゆったり寝れる有難みをこの時はまだ十分理解していなかったが・・・

4 時点灯起床。朝のお茶が提供される。外は小雨だが風は相変わらず強い。

もう 1 泊に備え朝食予定のカップヌードルは夕食に振替え、クリームパンで済ます。

7 時頃から明るくなり、周囲が見えて来たので外に出て景色を楽しむ。

その後は外へ靴・ザック・雨具・濡れた服等を干す。

ヘリが塩見に向かっているとおやじさんが指差すが、小生にヘリは見えず。

今年 7 月のヘリ出動は既に 3 回とのこと。

富士山も姿を現したがその姿はくっきりとせず、「まだ 7 月だけど例年の夏山らしさが無く、夏後半の天候だ」とおやじさん。

河村夫人がコーヒー／クッキー等を用意してくれたので、全員外で雑談して過ごす。

13 時頃より小屋周辺はガスで遠景は見えなくなったが、午前中の晴れ間で濡れ物がほぼ乾いたのが非常に有難い。

午後の小屋内でも河村／柴田夫婦ともすっかり打ち解け、よもやま話しとコーヒーサービスで楽しいひと時過ごす。持って来たグレープフルーツ 1 個を河村夫人に切ってもらい、5 人で食べる。お礼にとおやじさんからビールを Get。

15 時半過ぎに荒川小屋から夫婦 2 名がやって来る。夫は長野市在住の定年退職 63 才で、口が悪い亭主関白の典型だがなかなか話しは面白い人。

夫婦は夕食を頼み、そのメニューはレトルトカレー・味噌汁・味噌こんにやく。

味噌こんにやくは宿泊者全員にも提供された。

宿泊は 5 名と思っていたら、16 時半過ぎに男性 2 名の年配者が更に到着して 7 名となる。

伊賀上野から車で鳥倉・三伏峠経由で来た 60 才と 64 才（大工棟梁）のパーティ。

まさに元気な中高年登山者 4 名が加わり、7 名宿泊の小河内岳避難小屋は大入りで 19 時消灯となる。

7 月 31 日（土）：朝方小雨のち薄曇時々晴

4 時起床。外は小雨で視界も悪い。柴田夫婦はもう 1 泊するとのことでお別れ挨拶する。

ペットボトル 1.5ℓ の飲用水を小屋に提供し、水は 1.5ℓ ポリタンと 500cc ペットボトルのみと荷物を軽くして 5:35 出発。小河内岳ピークからはガスでもう小屋も見えない。

今日は初日のズボンびしょ濡れに凝り、雨具パンツの下は下着パンツのみ。

60 分歩いて休憩。7 時頃から時折太陽が顔を出す様になるが、樹林帯の中なのでそれなりに濡れる。板屋岳 7:25 通過、小河内岳避難小屋が良く見える。

高山裏避難小屋 8:05 着。8:25 出発して途中の水場で一息し、クサリ場を超えた小広場に

9:25 着。9:45 出発し森林限界に 10:25 着。10:45 出発して前岳直下に 11:30 着。一息入れて 11:50 より歩き出して前岳 12:10 着。ガスで遠景悪し。

ここで北日本新聞社主催中高年パーティ 9 名（内 2 名は若い男女のガイド）と関西中高

年パーティ 8 名と出会い、記念撮影を頼まれその後樫島ロッジまで同じ道程となる。
前岳で記念撮影後中岳に向かい 12:30 着。中岳ー東岳往復はコースタイム 3 時間なので
やはり悪沢岳は諦めて中岳避難小屋を眺めて 12:40 分岐へ戻る。

ミヤマキンボウゲ・クロユリ等が群れ、小生でさえデジカメに撮影する程、前岳南斜面
のお花畑がすばらしい。

荒川小屋 13:35 着、本日の行動時間はちょうど 8 時間である。

荒川小屋は 100 名収容の明るいきれいな小屋で、テント場・水場も近くて良い所だが、
トイレの発電機が少しうるさい。トイレは有料ではなかった。

素泊まり(寝具別) ¥4,500 / 泊 2 食付(寝具込) ¥8,000 で、今回は ¥8,600 支払う (¥600
は缶ビール代)。

寝床は通路左右に分かれ、2 階もある。また個室的な別部屋があり、団体パーティが占有
していた。1 人分左右を空けられる寝入り態勢で、昨日よりはかなり空いていると聞く。
食堂は 24 名程収容で、本日夕食は 17 時と 17 時半の 2 回戦。夕食は御代わり自由のカレ
ーライスとポテトサラダ・から揚げ等のオードブル風おかずとオレンジ・キウイのデザ
ートも少々付いていた。

お隣は前岳で記念撮影を相互にした人物で、寝るまで雑談をしていたが・・・。

20 時消灯。暫くして、お隣の絶え間の無い凄い鼾が出始めて、なかなか寝付かれない。

8 月 1 日 (日) : 晴時々曇り、午後より曇り一時小雨

4 時起床、頭は睡眠不足でボーッとしている。5 時朝食、メニューは納豆・味噌汁以外は
良く覚えていない。幸い朝から稜線が見え、天気が良いのが救いである。

6 時出発して途中で北日本新聞中高年パーティ等を追い抜いて大聖寺平 6:35 着、5 分休
憩で小赤石岳の肩へ向かう。先に行く関西中高年パーティを目指しピッチを上げて、肩
でこのパーティを追い抜いて一気に小赤石岳に向かい 7:35 着。

天気快晴の下、目の前に赤石岳が延びる。小赤石岳で 35 分休んで 8:10 出発、少し下っ
た所で雷鳥親子(母親と子が 2 羽)に出会う。久しぶりに生の雷鳥を見て感激!

大倉尾根分岐にザックを置く人が多いが、そのまま登って赤石岳 8:35 着。

富士山が時々雲に隠れるがまずまず見える。頂上に「ドコモ通話可能・au 一時的に通話
可能・ソフトバンク全く通じず」との看板あり。

赤石避難小屋ではドリップコーヒー ¥400 が美味いと、おばさん連中が多数トイレ使用に
併せて小屋に向かって行く。雪渓で冷やした生ビールの看板にかなり惹かれたが我慢す
る。鼾の主とも会うが、彼は本日百間洞泊りなので卒なく応対。

避難小屋先にもう 1 つ赤石岳の古い標柱(串ダンゴ形状) ? が立っていたが、これは何?

赤石岳頂上に1時間20分いて、9:55大倉尾根分岐に向かって下り始める。

分岐下の斜面にもお花畑が点在する。砲台休憩所前の水場10:45着で一息入れる。前を北日本新聞中高年パーティがいるので、後ろに付いていけば赤石小屋に昼前には着かないと思い、10:55ゆっくり付かず離れず後を追う。トラバース道は途中栈道が多くて余り良い道ではない。

富士見平に11:45着。北日本新聞中高年パーティはここでお弁当タイム、1組の夫婦がいてやはり食事をしていた（この夫婦が今宵の小生の眠りを妨げるインベーターであった）。富士見平には旧陸軍の飛行機遭難の碑が建っている。昭和19年4月25日遭難で、後で調べると三菱キ21九七式重爆撃機の墜落事故であると分かった。

パーティ連中より先に富士見平12:05出発して赤石小屋に12:30着。

本日の行動時間は6時間半でした。

赤石小屋も100人収容で、料金体系は荒川小屋と同じ。但しトイレは有料（可搬式カートリッジに溜めてへりで空輸するため、小河内岳避難小屋も同じ）。

管理人は5人体制で皆応対は感じが良く、隊長役は20代のお姉さん。

小屋前のテーブルにてビール500ml缶¥800で乾杯し、山の花の本を見ながら（ページがバラバラなので順に直すのが主となる）行動食をつまみに持参したバーボンも飲む。

食堂は外が良く見える開放的な場所で26席程、17時の夕食のメインは豚しょうが焼き。

夕食後ガスが晴れて赤石岳・子赤石岳そして正面遠方には聖岳も良く見えるので外のテーブルに座っていると、樫島から登って来たご夫婦と女性単独行2人（30代前半？）が隣に座り、樫島の様子を聞くのと赤石岳の道具合の質問から山の話に1時間程興じる。

女性単独行の1人は高山裏避難小屋のおやじさんはフェミニストで、返事はハイハイと愛嬌良くするのが肝心でテント場アサインは気に入った子を水場近くの良い場所にする傾向ありと発言。姫路のご夫婦からは畑薙ダムからの送迎バスが定員を満たすために、駐車場の集客で15分以上待たされて嫌な想いをしたと言う。

寝床は1階/2階とあり、2階は柱で1区画3人に分けている。最初は1区画2人だったが、いざ寝る前にダブルブッキングに移動者で3人フルとなり窮屈。

20時消灯後、左隣に横たわる富士見平にいた夫婦の夫から鼾が！これがまた昨夜と同じで連続音を発生する輩で、更に奥方までハーモニイを奏でる始末。

左手で突付くが一瞬止まるのみ・・・。

8月2日（月）：曇り時々晴れ

4時点灯起床だが、暫く起きられず。朝食は5:30の遅番にしていたので5時近くまで寝る。右隣の男性も小生左隣夫婦の鼾で寝られなかった模様で、朝食後に管理人のおにい

さんにクレームしていた。まあダブルブッキングに加えてだから無理ないか。

朝食は鮭開き・納豆・味噌汁・切干大根酢物・ひじき等の旅館的なもので、ご飯・味噌汁のお代わりをしてくれる。

榎島までのコースタイムは3時間半だが、寝不足気味なので予定より早く6:20出発。右足親指のまめにバンドエイドをしていたが、小広場先7:35着の休憩でまめがつぶれたのを確認。7:50出発するが足裏の痛みで酷くペースダウンする。榎島ロッジ8:50着。行動時間はまめにも負けず、2時間半でした。

榎島には大倉喜八郎の碑と神社があり、白旗史朗氏の写真を展示した写真館もある。レストハウスでシャワー券¥500 を買い、ロッジ別館にある浴室へ。4人分の湯音調整蛇口とシャンプー・ボディソープが備わり、浴槽は5人位が適度な大きさのもの。

榎島は携帯電話圏外で、テレホンカードタイプの公衆電話がロッジ別館にある。送迎バス13時の予約を済ませレストハウス裏のテラスのテーブルに陣取り、生ビールで乾杯。荒川小屋・赤石小屋で一緒だった単独行中高年者(60才前半)が同席、ナナカマド果実酒に加え赤ワインも飲む。日が射して来て暑くなったので、レストハウス内中央に移動してアルコール摂取は続く。移動後関西中高年パーティのおばちゃん/おじちゃん達が声を掛けて来る。昨日は一気に榎島ロッジまで下ったとのことで元気・元気だ。ロッジ発10:30の送迎バスをレストハウス内から見送るが、後でS57年卒の安原宏成君がそのバスに乗っていたことが彼のメール報告で分かる。

その後も白ワインを追加して飲んでいると、北日本新聞中高年パーティのおねえさん達が話しの輪に加わる。話し相手に事欠かず、13時送迎バスを迎える。送迎バスの評判が悪いので警戒していたが、運転手はガイドよろしく話も面白く、問題無く畑薙ダムに着く。送迎バス乗車客は22名。

畑薙ダムからの静岡駅行き「しずてつジャストライン」14:25発に送迎バス乗車22名がそのまま2台のバスに10/12名に分かれてゆったり乗車(¥3,000)。

井川駅付近からau携帯がようやく使えた。

バスにゆられて静岡駅まで熟睡。こうして南アルプス山行が終わる。

以上